

やつぱり心配、子どもの将来

## ちやんと知りたい！

# 進学 & 就職事情

取材文／清水由佳



現在、クラブ活動などに夢中のお子さんたちにも、進路選択の時期が迫ってきます。子ども自身が自分の意思で選択すべき進路とはいえ、保護者として心配のタネが尽きないのも事実。そんな心配事を整理して、まずは最近の進路選択の環境を把握してみましょう。

そもそも、保護者として子どもの進路選択にどのように関わっていこうと思っているのか。高校生のお子さんがいらっしゃる保護者の方に集まっていただき、ホンネ座談会を行いました。その様子を誌上再録します。皆さんのお手と重なる部分もきっとあるのではないかと想う。

### いまどきの高校生って、何だかとつても忙しそう

遠藤 私たちのときは、テスト期間中は部活が休みでしたよね。ところがうちは学校では、試合が近いからと部活をしていて驚きました。

### 学校や学部、受験制度など 変わりすぎてわからない

山田 実はうちの子は、近所の大学のオープンキャンパスに1年生から何度も行って「あそこに行く」と言っているんですよ。いまの子たちって、勉強も部活も、どちらも全力で頑張って、すごく厳しくされている気がします。

が遅くて、あと一歩というところで第一志望に届かなかつたんです。そういうことを言つても、「いまはとにかく部活が大変だから、そんな先のことまで考えられない」つて。だから、それじゃ遅いのに(笑)。



鈴木 入学当初は大勢部員がいた部活だったのに、あつという間に数人になってしまい、うちの子つたら辞めるに辞められず(苦笑)。顧問の先生に期待されてしまつたのか、毎日が部活漬け。まったく休みなしで、勉強もろくにできて

鈴木 だからこそ心配なんですよね。高校受験のとき、人より勉強始めるの選ぼうとしているのが見えるので歯が

# 座談会出席者

鈴木幸恵さん (44歳・仮名)

私立高校1年生の男子の母。パート勤務。自身のパート探しで職探しの厳しさを痛感したので、息子の将来がとても心配。

山田広美さん (47歳・仮名)

公立高校2年生の男子の母。パート勤務。子どもが勉強したいということと実社会でのニーズとのギャップが心配。

渡辺朋子さん (45歳・仮名)

私立高校2年生の男子と中学校1年生の女子の母。サービス業正社員。大学に行かないと言い始めた長男に手こずりぎみ。

遠藤祥子さん (43歳・仮名)

私立高校1年生の女子の母。専業主婦。子どもとはよく話すが、自分の頃と進路環境があまりにも異なるので戸惑い気味。

渡辺 うちの子は、漫画家になりたいとか夢みたいなことばかり言つていて。先日もそれで「じゃあ、漫画家の人たちの年収ってどのくらいなの?」とね

将来のことを考えるとつい口出しをしたくなる

渡辺 中学や高校受験のときは、結構一緒になっていろいろ調べて、「ここがいいんじゃない?」と薦めると素直に受け止めていましたが、高校生になるとそれが通用しなくなりますよね。もちろん、自分の意思で決めていてほしいとは思つんだけど、やっぱり危なっかしいことも多いし。そうなると、どこまで親が口を出すのか、正直、迷うこともあります。

遠藤 でも、1年生からちゃんとオーピンキャンパスに行くなんて偉いじゃないですか。うちの子なんて、まだ何がやりたいのかよくわからないから…とか言つて、ちつとも調べようとしないんですよ。まあ、逆に「じゃあ、どこがいいと思う?」と聞かれても、最近の大学や学部名がさっぱりわからないんですね。

鈴木 本当に、最近の大学や学部・学科名って、カタカナだらけでわけわからぬ(笑)。受験制度も、AO入試なんてなかつたし。

遠藤 中学や高校受験のときは、結構一緒になっていろいろ調べて、「ここがいいんじゃない?」と薦めると素直に受け止めていましたが、高校生になるとそれが通用しなくなりますよね。もちろん、自分の意思で決めていてほしいとは思つんだけど、やっぱり危なっかしいことも多いし。そうなると、どこまで親が口を出すのか、正直、迷うこともあります。

渡辺 うちの子は、漫画家になりたいとか夢みたいなことばかり言つていて。先日もそれで「じゃあ、漫画家の人たちの年収ってどのくらいなの?」とね

将来のことを考えるとつい口出しをしたくなる

渡辺 うちの子は、漫画家になりたいとか夢みたいなことばかり言つていて。先日もそれで「じゃあ、漫画家の人たちの年収ってどのくらいなの?」とね

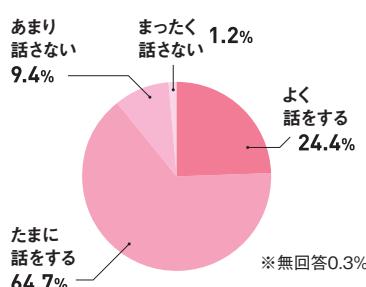
渡辺 中学や高校受験のときは、結構一緒になっていろいろ調べて、「ここがいいんじゃない?」と薦めると素直に受け止めていましたが、高校生になるとそれが通用しなくなりますよね。もちろん、自分の意思で決めていてほしいとは思つんだけど、やっぱり危なっかしいことも多いし。そうなると、どこまで親が口を出すのか、正直、迷うことあります。

遠藤 でも、1年生からちゃんとオーピンキャンパスに行くなんて偉いじゃないですか。うちの子なんて、まだ何がやりたいのかよくわからないから…とか言つて、ちつとも調べようとしないんですよ。まあ、逆に「じゃあ、どこがいいと思う?」と聞かれても、最近の大学や学部名がさっぱりわからないんですね。

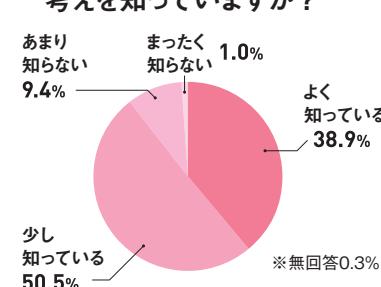
鈴木 本当に、最近の大学や学部・学科名って、カタカナだらけでわけわからぬ(笑)。受験制度も、AO入試なんてなかつたし。

遠藤 中学や高校受験のときは、結構一緒になっていろいろ調べて、「ここがいいんじゃない?」と薦めると素直に受け止めていましたが、高校生になるとそれが通用しなくなりますよね。もちろん、自分の意思で決めていてほしいとは思つんだけど、やっぱり危なっかしいことも多いし。そうなると、どこまで親が口を出すのか、正直、迷うことあります。

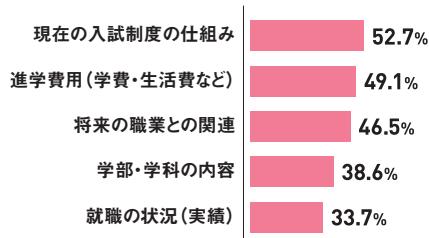
## ● 進路についての話をお子さんとっていますか?



## ● お子さんの希望進路や、進路に対するお子さんの考えを知っていますか?



## ● 子どもの進学にあたって、保護者として必要だと思う情報ベスト5



子どもたちと進路に関する話は、なんらかの形で話をしている人は多かったものの、やはり座談会でも出てきた入試制度や学部・学科の内容、将来の職業との関連などに関して、もっと情報がほしいと考えている保護者は多いようです。

※「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2009年9月~10月実施／社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート)の、保護者からの回答結果より。調査報告書は以下のHPにアップしています

(社)全国高等学校PTA連合会  
<http://www.zenkouren.org/>  
[キャリアガイダンス.net](http://www.career-g.net) <http://www.career-g.net>

受験

Case.1

## “入試制度”が複雑で わけわからない…

いくつもの制度が  
並存するので複雑になる

保護者の方々がかつて経験していた大学・短大の入試制度は、国公立大学を中心とした共通一次試験と、それ以外の個別大学が実施する一般入試が中心でした。高校の成績をもとにした推薦入試制度も行われていましたが、一般に公募されるというより、指定校推薦などで実施される特殊なものというイメージが強かつたのではないでしょか。

しかし、いまやそれも大きく様変わ  
りました。現在は、画一的な筆記試験というより、面接や小論文、実技評価など、さまざまな試験が学校・学部・学科によって課せられるようになっています。そのため、同じ大学の同じ学部・同じ学科の中にも、何種類もの試験制度が存在するようになり、普段試験情報に触れるものの少ない保護者の方々からすると、「複雑でわけわからぬ」となりがちです。

けれども、基本は表にある4つの種類の制度（推薦入試、AO入試、センター試験、一般入試）を組み合わせて行っていると思つてください。

しかも、この4つのパターンは、大きく高校生活全体を通じた日常の取り組みや個性をアピールしていくAO入試や推薦入試で臨むか、センター試験や大学独自の一般入試などいわゆる筆記試験に臨むかに分けられます。時期的に、推薦やAO入試は3年生の10月～11月頃に行われることが多く、年明けとともにセンター試験と一般入試が実施されます。そのため、学校や学部・学科によっては、推薦と一般の2度のチャンスが得られるようになつたとも言えます。

### より「個性」が見えるよう工夫する入試制度

特に大きく変化したのは、AO入試とセンター試験の登場です。

AO入試はよく、芸能人やアスリー

トが利用して話題になつたりします

が、いまや国公立も含め、多くの大学で導入されている入試方法です。高校の教科成績だけではなく、その人らしさをアピールしていく制度の一つで、その人の魅力や個性と、大学が求める人物像（学生像）が合致するかをはかる試験

です。そのため、実際の試験内容は、学校や学部・学科によって異なります。

AO入試とは別に、「自己推薦」「芸能」など、学校によって違う名称の入試制度がありますが、目指していることは同じです。

また、センター試験の結果を入試に活用する国公立・私立大学も増加しています（2010年度は全国の4年制大学651校が活用）。センター試験の結果を利用する分、個別の学校・学部で小論文や面接などを課し、学力と個性の両面から評価しようという動きにもつながっています。

### ●主な入試制度

制度	内容
推薦入試	高校生活を通じての学習評価が一定値以上の者を、校長の推薦により出願する。指定校制、地域指定制、公募制に大きく分けられる。最近は、公募制を導入する大学も増えている。
AO入試	大学が求める人物像と合うかどうかを、教科成績だけでなく、個人の活動や特技、高校生活で頑張ったことなどでアピールしてもらい、評価する。
センター試験	大学入試センターが、全国統一で行う教科試験。受験生は、自分の必要に応じて（出願大学などに応じて）科目を選択し受験する。その成績を、志望大学に提出し、合否が判定される。センター試験をどのように活用するかは、大学や学部・学科により異なる。
一般入試	従来のように、各大学が個別に行う一般入試。これにも、大学や学部・学科によって、科目の組み合わせが異なる試験のいずれかを選択するなど、いくつかのパターンをもうけている場合がある。





## Case.2

力タカナだらけの  
“学校”や“学部名”で  
何を勉強するのか  
想像できない…



### ● 2000年以降、統合などで変わった大学例

【統合後大学・学部名】	【旧校名】
九州大学芸術工学部 (2003年)	九州芸術工科大学
東京海洋大学 (2003年)	東京商船大学 東京水産大学
首都大学東京 (2005年)	東京都立大学、 東京都立保健科学大学、 東京都立科学技術大学 東京都立短期大学
大阪大学外国語学部 (2007年)	大阪外国语大学
慶應義塾大学薬学部 (2008年)	共立薬科大学

### ● 2000年以降、名称変更した大学例

【大学名】	【旧校名】
武藏野大学 (2003年)	武藏野女子大学
ノースアジア大学 (2007年)	秋田経済法科大学
関西看護医療大学 (2008年)	順心会看護医療大学
明治国際医療大学 (2008年)	明治鍼灸大学
東京都市大学 (2009年)	武藏工業大学
広島文化学園大学 (2009年)	吳大学
至学館大学 (2010年)	中京女子大学
宝塚大学 (2010年)	宝塚造形芸術大学

ここでは、主に大きく名称変更した大学を集めてみました。「最近、あの大学・学部、聞かないな」と思ったら、名称変更している可能性もあります。

「知らない学校がたくさんあつて、よくわからぬ」「昔はなかつたような学部学科がいろいろあつて、何を勉強するところなのかがわからぬ」といった声があがつていました。

文部科学省の「学校基本調査報告書」でも、1992年は全国で523校（国立98、公立41、私立384）だった大学が、2009年には773校（国立86、公立92、私立595）に増加しています。それだけ、皆さんがご存知ないです。大学が増えているということです。

また、学部や学科に関しても、時代の流れとともに学ぶ内容や名称が変化しています。

例えは、以前であれば「教育学部」や学科が「子ども学部」「人間発達学部」「子ども学科」など、「子どもも関する」とを学ぶ「人の発達に関する」とを学ぶ」といった、学ぶ内容に沿った学部名や学科名に変化しているところが増加しています。

さらに、「未来創造学部」「文化構想学部」「リベラルアーツ学部」など、以前にはなかつた概念での学部や、「マンガ学部」「メディア情報学科」「ITメディア学科」「生活環境学科」など、時代を反映した学部・学科も登場しています。

これらの学部・学科などの名称の変化には、学ぶ内容がより細分化された結果だつたり、以前の名称では収まりきらない学ぶ内容があつたりという理由があります。逆に、以前と同じ名称のままの学部・学科でも、実際に学んでいる内容が変化し、新しい学部や学科と似ていることを学んでいるケースもあります。そのため、名称だけにとらわれず、実際にどのような勉強を行つてゐるのか確認する必要性があります。そんなときに役立つのが、実際の授業を公開したり、体験したりできる「オープンキャンパス」です。

座谈会でもありましたが、早い人は高校1年生からオープンキャンパスに参加し、さまざまな学校を見ていました。参加することで、日々の勉強を頑張る動機になり、自分の将来を考えるキッカケになることもあるオープンキャンパス。大いに活用したいところです。



## Case.3

# 子どもが希望する進路で 将来、ちゃんと “就職”できるのだろうか？

### 学生時代の過ごし方を 問われる就職活動

まずは、いまの大学生がどのような流れで就職活動を行っているのかを、簡単に把握していただければと思います

現在の就職活動は、卒業の1年以上も前から始まり、大学4年生の春～夏にかけて内定が出始めます。かつてのように就職活動の解禁日というようなものがあるわけではなく、企業によって情報提供や選考開始などの日程が異なりますが、同じ業界や人気企業などは、ほぼ同時期に会社説明会を行ったり、選考をスタートしている傾向にあります。

また、情報収集や募集へのエントリーなど、その活動の多くはインターネットを通じて行なうようになりました。また、企業で実際に数日～数週間働いてみる「インターンシップ」を通じて、企業で働くということはどうことかを実感し、自分自身の将来をより具体的に考える機会も登場しています。

具体的な選考においては、一般的な履歴書や筆記試験などとは異なり、自

分の個性をより伝える「エントリーシート」を提出し、それによって選考が行われたり、面接の資料となったりします。

現在の大学生の就職活動での大きなポイントが、このエントリーシートと面接です。エントリーシートでも直接でも、主に問われていることは「あなたはどんな人なのか？」ということです。何を考え、どのような行動をとり、将来どんなふうに会社や社会で活躍していきたいと思っているのか。そういうことを短時間でより理解するための質問が、さまざまな角度からされます。それらの答えによって、一緒に働く後輩として、仲間として、その企業に合うかどうかが判断されるのです。

そのため学生達は、「なぜこの学校・学部を選んだのか」「自分はこれまで何のために勉強してきたのか」「勉強や部活動、サークル活動などで得てきたものは何だったのか」「将来にどんな夢を抱いているのか」など徹底的に考える必要に迫られます。

専攻や成績などではなく、まずは高校時代から続く自分自身の生き方、過ごし方を問われるというわけです。

### いまどきの大学生の就職

←4年生→		3年生						→	
10月	4月	2月	1月	12月	10月	9,8月	6月頃		
●内定式				●個別の企業の会社説明会が増加	●冬休みを利用した企業のインターンシップもある	●学校やイベント会場などで「業界セミナー」「就職セミナー」「就活フェア」なども実施される	●夏休みを利用した企業のインターンシップに参加する学生もいる	●夏休みの企業のインターンシップ情報なども流れる	●大学での就職セミナーなどが始まる
			●エントリーシートの提出が増加		●就職情報サイトがオープン。本格的な情報収集開始	●会社説明会の予約なども始まる			
			●多くの企業の面接・選考がスタート						
			●徐々に内定が出始め、6月頃までが選考のピーク						





# 大人たちによる「お膳立て人生」が、就職難を引き起こしています

リクルート『就職ジャーナル』編集長 毛利威之さん

## 求人倍率は1.62倍 就職氷河期とは異なる状況

2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけとした世界的な金融恐慌の影響で、その年の大学生は、内定取り消しや入社しても仕事がないための自宅待機といった厳しい状況に直面しました。その後景気は低迷しているため、引き続き大学生の就職が厳しいという報道が目に付き、「うちの子どもが就職するときは、大丈夫なのだろうか?」と保護者の方々が不安に感じるのも、当然のことです。

しかし、2010年3月卒の大学生の就職における求人倍率は1.62倍。就職氷河期と言われた1995年、96年頃とは比べ物にならないほど、新卒採用は行われています(下図参照)。バブル崩壊時に新卒採用を中止した企業の多くでは、新入社員が入ってこなかったため人を育てた経験のない社員が増え、結局中間リーダーの育成ができず問題となっているケースが増えています。そのため企業は、少人数でも新卒を採用し続けることが大切であると感じているのです。

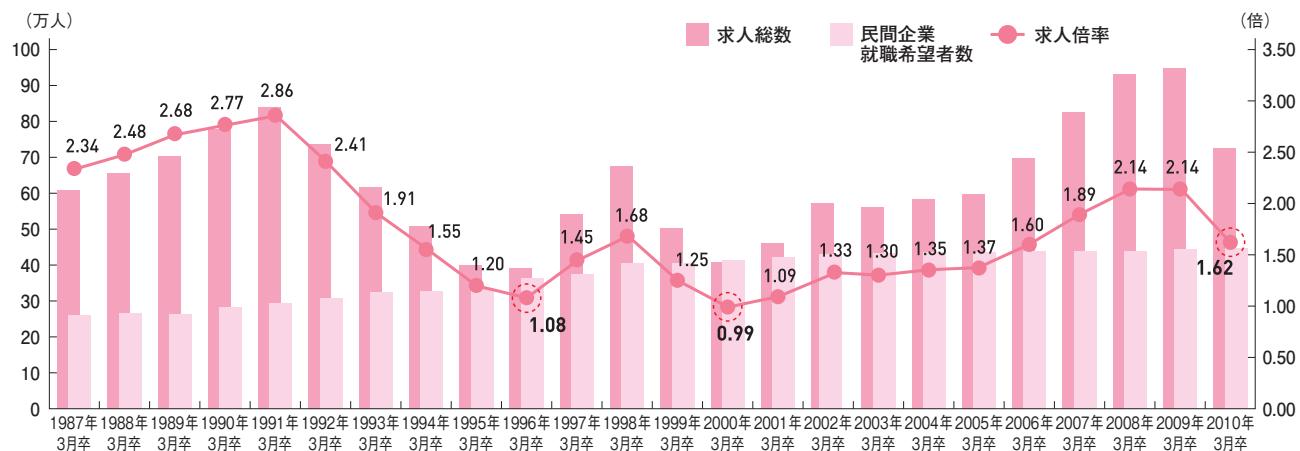
それでも「就職が厳しい」と感じている学生は数多くいます。大学の偏差値とは関係なく、同じ大学内でいくつもの企業から内定をとる学生と、なかなか決まらない学生の二極化が進んでいます。その背景にあるのは、新卒採用はポテンシャル(潜在能力)採用であるということ。企業が求めているのは「可能性」や「人間力」なので、選考で問われるのは、偏差値ではなく、ひたすら「あなたはどんな人?」なのです。

## 人間力を育むためには 主体的に行動させること

しかし、最近の学生は、中学・高校からずっと狭いコミュニティの中で育ち、「出る杭は打たれる」という経験もしたことがなければ、何かで大きく落ち込んだという経験もありません。そのため、「他人と違う自分」を意識することもなく、自分自身を客観的に捉える経験をしていません。一方で、情報環境が充実し、情報をたくさん入手しただけで就職活動を行ったという錯覚にも陥りやすい。そして、他人の自己分析を見て「自分も同じだ」と安易に取り込んでしまい、結局、いつまでも借り物の自己PRしか言えず落ちてしまいます。また、就職は、学生が社会人として自立していく過程です。何となく大学に入り、何となく勉強をして、何となくアルバイトをするといった受け身のままの姿勢では、社会人では通用しません。社会とは、主体的役割を持っている人の集団。だからこそ、誰かにお膳立てされた人生を生きているだけでは、社会になれないのです。結局、大人たちによる「お膳立て人生」の連続が、最近の学生の就職難を引き起こしていると言えるでしょう。

保護者の方々には、ぜひ、お子さんたちが自分で考え、自分で行動できる人となるための応援をしてあげてほしいと思います。何のために大学に入るのかを子ども自身が考え、短絡的なメリットの追求ではなく、好きなことに好きなだけ時間を費やせるという本来の大学生ならではの生活が送れるよう、応援してあげてほしいと思います。

## ● 求人総数・民間企業就職希望者数・求人倍率の推移



\*リクルートワークス研究所調べ

# 総論

## 保護者ができる 子どもの“進路選択支援”は どんなこと？

子どもから、社会から  
活力を奪わないために

子どもの将来を考えると、保護者は  
つい口うるさく言いたくなるし、なかなか  
か動こうとしない子どもへの苛立ちも  
募りがち。座談会でも、「手を出しき  
ているかなと思うけど、やっぱり心配  
でつい学校のことを調べてしまう」「子  
どもに任せていると間に合わなくなり  
そうで、つい…」といった声が聞かれま

した。確かに、子どもと「ミニケーション」をとるためにも、情報を正しく理解しておることは大切です。

けれども、「就職ジャーナル」編集長の毛利さんの言葉にもあったように、それをやりすぎると子どもに「お膳立て人生」を与え続けることになりかねません。「自分から動こうとしないから心配で手を出す」→「ますます子どもは自分から動こうとしなくなる」といふ悪循環になりそうです。最近の子どもたちは「おとなしい」と言われます

が、それは裏返すと自発的に何かを起しそうという「活力がない」ということかもしれません。その行為がお子さんから活力を奪うことにつながらないか、ぜひ考えてみてください。

### 自分で調べるのではなく 「信じる」気持ちが大切

保護者にできることは、子どもたちの成長力を信じ、多少の失敗にもひるまない強さを持たせてあげること。だからといって、何も関わらないということが、果たしていいことなのでしょうか？

保護者にできることは、子どもたちの成長力を信じ、多少の失敗にもひるまない強さを持たせてあげること。だからといって、何も関わらないというこ

とではありません。

中央大学文学部教授の山田昌弘先  
生は、「就職活動を通じて、大学生は驚  
くほど大人に成長していきます」と言  
います。それは、就職活動では何度も  
面接で落ち、悩み、もがき、それでも前  
進する繰り返しがあるから。「保護者

の世代は、人生の基本的な事柄が自動的に進んでいった人たちだと思うんで  
す。だから、リスクをとるより道からは  
ずれることを優先しがち。結果、最  
近の学生は、「失敗したらおしまいだ」  
という恐怖感が非常に強く、ちょうど面  
接で失敗しただけで非常に落ち込み、  
引きこもりやうつ病につながつていが  
ちです。子どもたちにリスクなしの選  
択をずっとさせていて、ますます社会  
全体が安定志向になっていくことが、  
果たしていいことなのでしょうか？」

した。確かに、子どもと「ミニケーション」をとるためにも、情報を正しく理解しておることは大切です。

けれども、「就職ジャーナル」編集長の毛利さんの言葉にもあったように、それをやりすぎると子どもに「お膳立て人生」を与え続けることになりかねません。「自分から動こうとしないから心配で手を出す」→「ますます子どもは自分から動こうとしなくなる」といふ悪循環になりそうです。最近の子どもたちは「おとなしい」と言われます

が、それは裏返すと自発的に何かを起しそうという「活力がない」ということかもしれません。その行為がお子さんから活力を奪うことにつながらないか、ぜひ考えてみてください。

### ● Message from 山田昌弘先生

#### 保護者自身の生き方を示してあげてください

学生の指導をしていて、就職活動が順調に進む学生に共通するのは、「挨拶がきちんとできる」「約束を守れる」「お礼が言える」など、いわゆる普通の常識を身につけている点。社会人として当然な習慣が身についているかどうかが重要なんです。それに

は、親や家族が日頃からちゃんと挨拶をしている姿を見せてくるかどうか、家庭環境に影響されると思います。

また、社会人として受け入れるために

は、教養力が重要です。それがコミュニケーション力や就職で大切な自分を客観的に見る力につながります。これも、親がまじめに社会に取り組んでいる姿を見せる。仕事だけでなく、専業主婦なら常に勉強する姿を見せる。英語やパソコンが大切だと思ったら、「やれ」と言うのではなく、ご自分が勉強してその姿を見せる。テレビの教養番組を見ながらいろいろ話をするのもいいでしょう。ぜひ、自らの生き方で示してあげてください。



中央大学文学部教授  
山田昌弘先生  
専門は家族社会学。家族や恋人などの人間関係を社会学的に読み解く。「バラサイト・シングル」「パパ活」「婚活」などの言葉を世の中に送り出した。

